

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第6回: 中国共産党100周年; 習近平演説から思うこと

2021年7月8日配信

【ポイント】

- ・「習近平の正統性」を強調した演出(ただ一人人民服(毛沢東色)+天安門広場開催)
⇒2022年秋の第三期目入りが当面の注目。 但し責任集中=脆弱化のリスクも
- ・共産党の過去の功績説明に多くを割く⇒「国民生活改善を目に見える形で示し、それを選挙に代わる
政権正統性の根拠とする」という、権威主義体制のサガを示している
- ・「台湾」への言及は最後+簡潔⇒統一に強い決意を示す一方、「次の100年」の課題との位置づけ
(「中国共産党の変わらぬ歴史的任務」)
- ・「国内の格差」への心配は、正直な現状分析の吐露⇒この問題への対処如何が民主主義と
権威主義の「闘い」に大きな影響=問題の9割は外国ではなく国内にある

【本文】

- 7月1日、中国共産党創立100周年記念式典で習近平は1時間以上の演説を実施。
- 場面設定は、「習近平の正統性」を強調=これは脆弱性にも繋がらう
 - ・習近平のみが人民服着用。その色は天安門にかかる毛沢東の絵と同じ。
 - ・通常の人民大会堂開催ではなく、天安門広場(100周年なので特に不思議でないが)
 - ・2022年秋に就任10年を迎える習近平が、中国指導者として初めて3期目に入るかどうか
当面の焦点だが、その可能性はますます高まった。
 - ・一方、習近平への責任集中+後継者混沌の状況=脆弱性にも繋がらう
⇒本年秋の党大会での「次」を巡る人事にも要注目
- 共産党の過去の功績説明に多くの時間を割く⇒常に正統性を説明せざるを得ないサガ
 - ・「小康社会建設」「貧困問題解決」「全面的開放」「世界第二位GDP」等
 - ・民主主義の強み=「自由」の発露である選挙による指導者決定。それが正統性の根拠
 - ・権威主義の弱み=国民生活改善を目に見える形で示することで正統性の根拠を作り出し続けなければならぬこと⇒10年以上GDP二桁成長を経験した今、今後の正統性説明は簡単ではない
(説明根拠のリストはどんどん短くなる)。
 - ・「台湾統一」を根拠にせざるを得なくなるように自分を追い込み過ぎないかが問題

- 「台湾」への言及は最後＋簡潔⇒強い決意を示すが、「次の100年」の課題
 - ・「中国共産党の変わらぬ歴史的任務」。強気維持は正統性維持のために不可欠。
 - ・一方、「次の100年」の課題との位置づけ。
 - ・「台湾」の武力統一には出口なし。困難さ＋失敗すれば共産党の正統性を根底から傷つけるというリスクは中国も十分理解しているはず(と期待したい…)
 - ・今後、2027年(人民解放軍100周年)⇒2049年(中共建国100周年)と節目は目白押し
⇒中国に対して強いメッセージを送ると同時に、中国が自分を追い込み過ぎないためにどのような対応があり得るか、真剣検討の要

- 「国内格差」への対応の必要性を正直に吐露⇒民主主義・権威主義優位を決める試金石
 - ・両体制を分けるのは、人間の基本的欲求(自由・繁栄・安全)のどれを優先するか
 - ⇒民主主義＝自由最優先＋それが繁栄、安全にもつながる
 - ⇒権威主義＝自由をある程度諦めれば、国が繁栄、安全を手当てる
 - ・コロナのような事態では、権威主義の方が優位
 - ⇒権威主義では、都市封鎖などの強制措置を通じて早期の感染封じ込め＋経済回復
 - ⇒民主主義では、自由⇒感染拡大⇒封じ込めに時間
 - ＝民主主義が当然世界の多数の支持を得る、というのは楽観的に過ぎる
 - ・共通の問題は、貧富・地域格差
 - ⇒これにどれだけ効果的に対応できるかが、両体制の優劣を決める試金石
 - ⇒バイデン大統領・習近平共に、真の課題(問題の9割)は「国内」にある

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文

問い合わせ先:りそな総合研究所 アジア室 石橋

メールアドレス: shuzo.a.ishibashi@rri.co.jp